



5ff8246e76ef8

医療機関名：PMCクリニック

受診日：2023/4/1

受診者名：サンプル タロウ

カルテID：123456789

備考欄①：

備考欄②：

大腸がんリスク検査報告書

ProtoKey®

プロトキー大腸がんリスク検査

ProtoKey®大腸がんリスク検査は、あなたの検査結果と類似した検査母集団(群)における、
統計的な大腸がんの発症リスクを指標化したものです。

*本検査は疾患の診断や将来の疾患発症を確定するものではありません。

*基礎疾患やその他遺伝的要因等によっても大腸がんの発症リスクは変動いたします。

氏名 サンプル タロウ 様	性別 男性	年齢 47歳
受診日 2024/4/1	カルテID 123456789	

今回のProtoKey®大腸がんリスク検査の結果

血中ペプチド濃度の解析結果より、リスクインデックス値は**0.01**でああなたの結果値と同等の方は**評価A(低リスク群)**に分類されます。

結果コメント

今回の検査結果ではリスクインデックスの値から、評価A(低リスク群)に分類されました。

大腸がんは症状に気づきにくいがんともいわれています。今後も定期的に検査を受検し、大腸がんの早期発見・予防に努めましょう。また、食生活、喫煙、飲酒などの生活習慣の乱れにも注意しましょう。

(各)リスクの分類について

**評価A
(低リスク群)**
インデックス値:0.00-0.41

リスク因子を避けて、健康的な生活習慣を心がけましょう。
また、リスク管理のためがん検診や本検査の継続的な受検をおすすめします。
*「低リスク」群であっても疾患の発症可能性が否定されるものではありません。

**評価B
(中リスク群)**
インデックス値:0.42-0.91

喫煙習慣や肥満といったリスク因子をお持ちの方は、生活習慣を見直し、健康的な生活習慣を心がけましょう。
また、リスク管理のためがん検診や本検査の定期的な受検をおすすめします。
※1年に1度程度

**評価C
(高リスク群)**
インデックス値:0.92-1.00

医療機関ともご相談の上、専門医の受診をご検討ください。
必要に応じて、大腸内視鏡検査などの精密検査(右ページ参照)の実施を推奨します。

大腸がんのリスク因子について

大腸がん発症の危険性を増加させるリスク因子がいくつか報告されています。
予防の第一歩として生活習慣の改善を心がけましょう。

✓食生活



赤身肉や加工肉（ベーコン、ハム等）の過剰摂取は大腸がんのリスクを上昇させるとわれています。

✓喫煙



喫煙は大腸がんの発症危険度を増加させるとされています。
また、動脈硬化やその他のがんのリスク因子としても考えられています。

✓アルコール



アルコールを1日1合以上摂取する方*は、お酒を飲まない人に比べて、2倍ほど大腸がんのリスクが高まるとわれています。

*エタノール量換算で約23g程度

✓肥満



肥満は大腸がんのリスクを増加させることが報告されています。
特に男性ではBMI（肥満指数）が25以上の方が、それ以下の人に比べて大腸がん発症の危険度が2倍ほど高まるとわれています。

参考：国立がん研究センター がん情報サービス
科学的に基づく発がん性・がん予防硬化の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究

大腸がんに関する精密検査について

大腸がんは自覚症状が少ないことで知られています。
必要に応じて専門外来の受診や精密検査の実施をおすすめします。（下記は実施例です。）

✓大腸内視鏡検査



肛門から、管状のカメラを入れて、大腸全体を観察する検査方法です。
大腸がん、大腸ポリープなどの疾患の発見に優れています。

✓CT検査



X線とコンピュータを使用し、大腸の画像を撮影する検査です。
内視鏡を挿入せず大腸の鮮明な画像を撮影できるため、「バーチャル大腸内視鏡検査」とも呼ばれています。

※ProtoKey®大腸がんリスク検査は医師の診断を代替する検査ではありません。

※大腸がんの診断は、その他の健康診断の検査結果や精密検査の結果をもとに総合的に判断されるものです。

● ProtoKey®大腸がんリスク検査について ●

検査概要

本検査では大腸がんの患者の血液中で増減する4種類のタンパク質の断片(ペプチド)を測定しています。

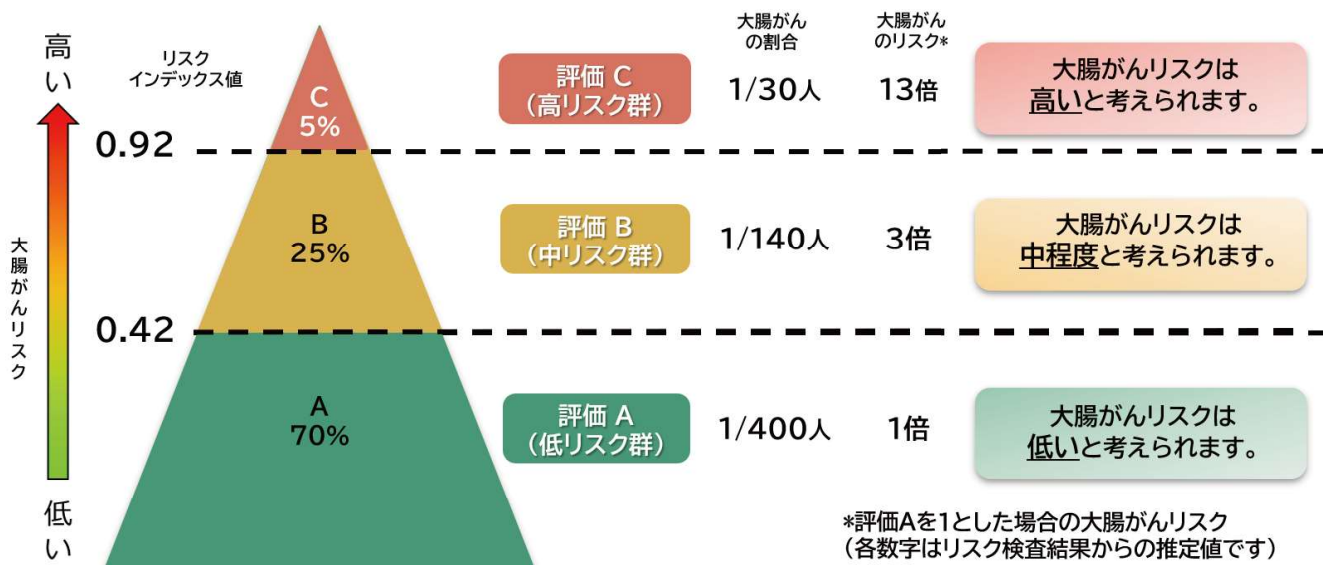
これらのペプチドは大腸がんの病態に関わるタンパク質が断片化されて生じたものであり、これらをリスクマーカーとして測定しています。

ペプチド(タンパク質の断片)		増減 (大腸がん/健常者)
1	フィブリノゲンの断片	増加↑
2	α-2-HS-糖タンパク質の断片	減少↓
3	血液凝固第ⅩⅢ因子の断片	減少↓
4	血管拡張因子刺激リン酸化タンパク質の断片	増加↑

結果について

大腸がんが増減する4種類のペプチドを測定し、その値から大腸がんリスクインデックス値を算出し、大腸がんのリスクをA(低リスク群)、B(中リスク群)、C(高リスク群)の3段階に分類します。統計的に、評価A(低リスク群)の方は大腸がんが見つかる可能性が1/400、評価B(中リスク群)の方は1/40、評価C(高リスク群)の方の場合は、1/30ほどの割合と推計されています。*1

*1 各群における大腸がん罹患率はリスク結果の分布および有病率からの推定値です。



受検後の対応

生活習慣を見直してリスクの軽減に努めるとともに、定期的なご受検をおすすめします。また、必要に応じて、大腸内視鏡検査などの精密検査を受けることをおすすめします。